

2023 年 6 月 5 日

学校法人三幸学園
福岡こども専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 脇内 淑子

学校関係者評価委員会実施報告

2022 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 脇内 淑子 (社会福祉法人ゆりの会 あさひ保育園)
- ② 高橋 奈未 (一般財団法人公園財団 雁の巣レクリエーションセンター)
- ③ 久保田 明里 (2022 年度卒業生 社会福祉法人 新芽会 基山バディ認定こども園)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023 年 6 月 5 日 (会場 福岡こども専門学校 201 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度 学校法人 三幸学園 福岡こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石川 好典・林 成志

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 脇内 淑子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・学修者本位の教育の提供

→学科担当制を導入することで、学生フォロー・育成の拡充を図る。

・ICT 教育の更なる充実と新たな教育の提供へのチャレンジ

→オンライン授業のスキルアップと ICT 活用した授業展開のノウハウを共有し質の高い授業展開を行う。

② 学校関係者評価委員会コメント

＜脇内委員＞

・より学修者本位の教育に近づけるために、現場に則した授業内容への改良や各科目のシラバスの見直しは継続課題ではないか。

＜高橋委員＞

・ボランティア募集において、学生用グループウェアにて周知していると思うが、情報をキャッチする力に差があるように感じる。学生自身が ICT を活用した情報収集等に慣れておくの良いのではないか。

＜久保田委員＞

・昨年度より学科担当制が導入されたことで学校生活や実習就職相談における相談窓口が増えた。自分に合った相談相手を選んで話ぐできたことは学生にとって非常に大きなメリットとなった為、継続すべきと感じる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・業界の現状理解とニーズを踏まえた学生育成・指導を行うこと
→「知る・実践・理解」までの授業・指導に偏り、「指導ができる」レベルまでの人材育成ができていない。

② 今後の改善方策

- ・保育現場への訪問強化を図り、業界のニーズに合わせた実践的な職業教育の場を確立

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<協内委員>

- ・「技能と心の調和」という理念に基づき教育展開をしているが、技能面は園・就職先により求められるものやレベル感が異なる。心の部分である人間性やスタンス・マナーを身に付ける為にビジネスマナーの授業があると良いのではない。

<高橋委員>

- ・ボランティア等実践の場の案内が複数あることで、より現場に則した人材育成ができる環境であると感じる。保育園、幼稚園に限らず様々な保育・こども関連の企業との連携が強化できると尚良いのではない。

<久保田委員>

- ・教育理念やビジョン、目指す人物像等が複数あることで、どれが目指す位置・目標なのか浸透されていない印象がある。複数存在する中でも、特に何を大切にすべきかを入学当初から一貫して伝え続けると良いのではない。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・WEB での出席確認・成績管理等情報システム化により一部業務の改善は図れているが、それらを最大限活用する為の ICT スキルが教職員に備わっていない。

② 今後の改善方策

・三幸学園本部管轄である IT スキル・リテラシー向上研修の参加、活用
 ・保育現場等への訪問を通じて業界の ICT 化動向を常に把握し、都度業務の見直しを図る

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<協内委員>

・各保育現場での ICT 化は保護者連絡ツールのアプリ化をはじめ、引き続き進んでいる。学生自身が保育現場の ICT 化の現状に対応できるよう、ICT 化促進に則した学びを展開することは重要だと考える。

<高橋委員>

・三幸学園の校舎は各校施設が整っており学びの環境が整っているように感じるが、チャット GPT、AI の発達促進により学習環境に変化が起きている以上、引き続き学校教育がその環境に順応していく必要があるのではないかと考える。

<久保田委員>

・情報システム化の 1 つとして SankoGate が活用されていたが、自身に関係のない情報(希望地区外の求人情報等)の通知が多いことが原因で通知をオフにし、定期的に見る習慣がつかない実状があった。情報発信時の設定変更を行う等、学生目線での課題解決ができるとより良いのではないかと考える。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・時代のニーズに合った“実践的な職業教育”の確立

② 今後の改善方策

- ・在籍学生数の実践の場の創造（新しいプロセスの開発）
- ・現場の声を教育に活かすための園訪問強化（新しい育成システムの開発）
- ・学園理解をふまえた産学連携の関係性確立（新しい市場の開発）

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜協内委員＞

- ・書類作成(指導計画等)を苦手とし、新卒で入職後つまずいてしまう卒業生が多いように感じる。実習における書類とは別に、現場ではどんな書類があり、どのように対応するのかという基礎を卒業前に学べると良い。
- ・ピアノの授業が複数あることは学生の練習機会として良いが、バイエル等基礎練習ばかりの内容は現場活用において不要であると感じる。現場で実践できる季節のうた等の練習ができる構成のシラバスになると良い。
- ・各学年で何を製作、何を学んだのか情報共有できる場があると良いのではないかと感じる。自身の学年では行っていない授業内容等の情報は新たな知識として蓄積され、学生の行動促進や学ぶ意欲の向上につながる。
- ・先生側が良いと思っている内容と現場で求められる力に相違はないかと常に現場情報を収集して確認する必要がある。ICT の促進以外にも保育現場では常に様々な変化があるので、その変化をリアルタイムかつ適切に把握し、学内での学びとして取り入れていけると良いのではないかと感じる。

＜高橋委員＞

- ・学年間での情報共有があると、リアルな声を参考に学びの意欲も高まるのではないかと感じる。このボランティアに参加してみてもこんな経験ができた等、先輩からのアドバイス・助言は後輩にとっても参考にしやすいと感じる。
- ・ボランティア等の実践の場が多いことに限らず、現場経験豊富な先生が多数いることは学生の知識量や実践力向上につながる強みであると感じる。

＜久保田委員＞

- ・卒業学年で学ぶべき内容の見直しが必要ではないかと感じる。保育技術以前に就職後すぐに求められた力がビジネスマナーであるため、そのビジネスマナーに関する知識を養う授業・学びがあると良いのではないかと感じる。
- ・在学中に複数の資格取得をしたものの、どのように活かすべきかが分からず活用できていない資格もある。資格取得のフォローだけでなく、取得後に活用する場の提供が学内の学びとして展開されると良い。
- ・授業内容と保育現場で行うことの差がより埋まってくると良いのではないかと感じる。動く紙芝居や合奏等、様々な授業内容が展開されているが、実際の保育現場で行われていることが少ないものもある。現場ニーズを学校側で理解した授業内容に改良されるとより実践力に繋がると感じる。
- ・ただ単に技術を学ぶのではなく、年齢別の技術や対応方法を学べるとより良かった。幼児(以上児)対象の授業内容が多いので、実習や新卒で配属される可能性の高い乳児(未満児)対象の授業展開などがあると、より現場での活用幅が広がる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・業界の最新情報や働く上で必要とされる力を理解し、リアルタイムで適切に伝えること

② 今後の改善方策

・園訪問強化に伴い、現場より得た情報を授業や学校生活の中で積極的に学生に伝達する
 ・計画的な卒業生訪問を実施し、在校生指導と現場ニーズの相違がないか常に見直しを図る

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<協内委員>

・4月の入職前に複数回勤務（アルバイト・ボランティア・研修）する等、環境に適応する機会を設定すると良いのではないかと。園側からの指示を待つだけでなく、退職を未然に防ぐ対応策として学校側から就業前勤務の相談をする等の対応策を検討することも重要であると感じる。

・求人票の見方を理解することももちろん重要だが、退職率低減や長期就労を見据えて各園の保育方針や教育理念等を理解する重要性をサポートの一環として学生に伝えていけると良いのではないかと。

<高橋委員>

・保育園、幼稚園に限らず、保育・こども関連企業等への就職先が選択肢として増えると尚良いのではないかと。この資格をとるとこういった就職先がある、こういった就職先に勤めるのであればこの資格が必要という案内を含め、就職先の選択肢を増やすことは学校として取り組むべき課題の1つであると感じる。

<久保田委員>

・求人票の見方、給与計算の方法、福利厚生について等、幅広く就職指導の授業内で情報提供されていることは、学生にとって重要であるため、継続的に情報提供されると良い。

・就職活動の手順や方法等、入職までの指導内容は多く取り入れられているが、就職後に必要とされる社会人としての基本的ビジネスマナーやスタンスを学べるとより良かった。また、一般企業等、保育業界以外の話も聞くことができる機会が増えると知識量の増加だけでなく、保育業界の魅力確認にもつながると感じる。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

・実践教育の場の確保不足

→一部保育現場との連携に偏りがあるため、全学生へ提供へと繋がる実践教育の場の拡充を図ることが必要。

② 今後の改善方策

・保育園・幼稚園との連携に留まらず、地域の子育て世代のニーズに合った新たな実践の場を創造

・実践教育の場の拡充に伴う、教職員側の育成・指導の認識統一およびスキルアップを図る

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜脇内委員＞

・一部の保育園、幼稚園からの情報では適切に現場ニーズを捉えることは難しい。卒業生訪問等の園訪問をより強化することで、学生の学びへと還元できる学校と現場（園・企業）との関係性が築けるのではないかと。

＜高橋委員＞

・アルバイトや新卒の職員を見ていると指示待ちの状況になっていることが多い。学校側での情報提供や支援体制があるのは良いが、まだまだ学生が自分で考えて行動できないことが課題である。学生の主体性の醸成は継続課題として取り組むべきではないかと。

＜久保田委員＞

・卒業生訪問の実施は園情報をリアルタイムに適切に得ることができるだけでなく、そのリアルな情報をもとに学生の就職先選択へとつながるため、学生と園とのミスマッチ防止につながると感じる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・学習形態に合わせた通信環境の十分な確保
- ・学外活動実施に伴う時間の確保

② 今後の改善方策

- ・通信環境の整備および学園情報システム部との連携を強化し、適切な学習環境を担保
- ・一部学科学年にて週4登校とし、自主実習やインターンシップ等が実施できる環境の提供

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<協内委員>

- ・オンライン授業の活性化や ICT 促進により学習環境は大幅に改善されているように感じる。しかし直接的な対話が減少している環境下で更なるコミュニケーション能力の低下が懸念されるのではないかな。

<高橋委員>

- ・卒業学年となると実習や就職活動等でボランティア活動には参加しづらい状況となると思うので、1年生のうちから参加できる環境をより整備することで、2・3年かけて実践力を磨くことができるのではないかな。

<久保田委員>

- ・この数年はコロナ禍で思うようにボランティアに参加できない、中止になるということも多々あった。その状況下でも保育園・幼稚園・地域企業との連携ボランティアの案内に関しては適時行われる環境が整っており、現場実践を踏める機会があることはとても良かった。
- ・AED の場所の周知や避難訓練の実施に関しては、就職後の現場でも必ず必要な知識となるので継続的な情報提供があると良い。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・福岡県専修学校各種学校協会の規定に従い、適正に実施

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

< 協内委員 >

・保育のやりがいや魅力を高校生に伝える為に、こどもと関わり活き活きと活動している在校生の様子を SNS 等で引き続き公開できると良い。

< 高橋委員 >

・SNS 等を通じて学生のリアルな情報や現場実践の様子を伝える為にボランティアなどで保育現場を積極的に活用することはもちろんだが、そのボランティア先の種類がより多岐にわたると将来のイメージが湧きやすくて良いのではないかな。

< 久保田委員 >

・資格取得ができることも学校選びでは重要であるが、保育士・幼稚園免許を取得できる養成校は複数存在する。その資格を活かす活動が学校生活の中にどれだけあるのかをより伝えていくと、高校生がワクワク・楽しい学びができるというイメージを持つことができるのではないかな。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・コンプライアンス、個人情報管理に関する更なる理解促進

② 今後の改善方策

・教職員全員を対象としたコンプライアンス研修を実例紹介も併せて実施

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・保育園、幼稚園に限らず、地域企業との連携の強化および地域に根付いた学校運営

② 今後の改善方策

・幼児教育や保育関連企業への積極的訪問且つ新規産学連携の確立

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<協内委員>

・ボランティア等の活動は園側の先生の勉強になる上、新たな気づきにも繋がるものではないか。各園や外部企業と長く良好な関係を築いていく為にも、学生の学びに偏ることがないよう養成校・現場の双方でメリットが得られるようなボランティア内容の検討や提案ができると良い。

<高橋委員>

・現場での実践経験は受入側にとっても将来の職員・社会人としての育成にあたりとても重要な機会であるため、学内では学ぶことのできないマナー・振る舞い含めた学びの場として可能な限り機会を増やせると良い。

<久保田委員>

・学外での活動は、他養成校の学生との関わり等学内では得られない情報収集の貴重な場でもある。その情報をもとに自分自身の学びの振り返りにも繋がるので、引き続きボランティア等の機会は開拓してほしい。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

・留学生受け入れに伴う知識の醸成および留学生の就職先確保

② 今後の改善方策

・保育士、幼稚園教諭に限らない様々な職種(英語指導者等)における求人の確保・開拓

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<協内委員>

・現場に出た卒業生が学内の学びをどう感じているのか、何が活かせて、何をより学んでおきたかったと思うのかなど、卒業生の声をぜひ聴いて今後も学校運営に活かしてほしい。
・社会的ニーズを常にキャッチし、そのニーズに応えられる人材を輩出する為に、学内の授業や取り組みも柔軟に変化していけると良いのではないかな。

<高橋委員>

・学生の主体性が育まれていく教育の仕組みがこれからも整っていくと良いのではないかな。受け身な姿勢では在学中、就職後ともに自身の成長の幅は制限されてしまう。その1つの教育機会として学外活動の場をこれからも最大限活用し、学生の成長の場としてほしい。

<久保田委員>

・資格取得・実習単位修得は当たり前、その資格や身に付けた力をどのように現場で活かすかという視点で授業やボランティア等の学外活動がこれからも進化していくことを期待している。

<林副校長>

・時代のニーズに合った“実践的な職業教育”の確立が必要と考える。社会のニーズに対する即応性を大切に、職業能力等に特化した実学の学校を目指すことで専門学校として価値を見出していきたい。